授業科目　生理学実習

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	臨床
中村　藤夫、大山　富三	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	45

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○		○	○

【概要・一般目標：GIO】

生理学で学んだ人体の働きを個々の事象を見ることによって生命維持の基礎を習得する。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．正常な循環機能を説明できる。
2．正常な呼吸機能を説明できる。
3．血液の生理機能を創造する。
4．消化酵素の働きを創造。
5．正常な感覚機能を説明できる。
6．体温の正常機能を説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-6	運動による循環器機能の生理的変化。（心拍数、血圧、呼吸数）	1	講義・実習
7-8	肺活量の測定（肺活量、努力性肺肺活量）、過呼吸による血液の変化	2	講義・実習
9-14	血液の機能（浸透圧、赤沈、毛細血管抵抗試験）、血糖負荷試験	3	講義・実習
15-16	消化酵素の機能（アミラーゼ、ペプシン）	4	講義・実習
17-20	感覚機能（皮膚感覚、深部感覚、聴覚、味覚）	5	講義・実習
21-23	体温（皮膚温，深部温等）、体温による神経伝導速度の変化	5,6	講義・実習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	臨床検査学講座 生理学第２版	佐藤　建次、北村　清吉		2004・2,730円・2004年２月
参考書				
その他の資料	資料配布			

【評価方法】

レポート（30%）
定期試験（70%）

【履修上の留意点】

生理学で学んだことをしっかりと身につけて実習に臨むこと。
積極的に実習に取り組むこと。実習態度に積極性が見られない時や生理学の知識が不足している場合は実習に参加出来ないことがあるので注意すること。